

5.20

■司会 高崎 茂直〈大分県〉 大分県立香々地少年自然の家 指導課長
 湊田 桂子〈佐賀県〉 佐賀県立生涯学習センター「アバンセ」 生涯学習サポーター

1. 野芝居「鯨神」

14:15~14:40

ー歴史遺産の復活とまちの再発見ー

浅田 直幸〈長崎県〉 崎戸町「ぶからあ」たい 隊長

崎戸町は古式捕鯨の基地として栄えた町である。平成8年に結成された町活性化団体「ぶからあ」たいが中心となって、江戸時代の勇壮な鯨組の活動と義太夫勝清の偉業を野外での芝居として再現、実物大の鯨の模型も製作した。壮大な捕鯨の歴史や先人たちの偉業を知り町の魅力を再認識することによって、町を愛する仲間が増えた。わが町再発見隊タウンウォッチングの開催から「鯨神」上演までの地域づくり活動の経緯、課題等を発表する。

2. 届くか「とどろき女太鼓」

14:40~15:05

ー女性有志の超過疎地のまちづくりー

小野川章男〈高知県〉 大正町「四万十川 とどろき太鼓愛好会」 代表

主婦、町職員、教職員、保育士等の女性有志が、地域の民俗文化を掘り起こし、和太鼓を地域文化として育て根付かせたい、和太鼓を通して人を育てようと、平成7年11月から活動している。これまでに町内外のイベントに50回以上参加、地域交流の輪が広がり、町づくりの活力となっている。メンバーの親密感が増し、物事への取り組みの姿勢も変わってきた。平成11年度は特に中学生との交流・競演によって、世代間交流と理解を深めた。

~ ティータイム ~

15:05~15:40

3. 音がつなぐ人をつなぐ街をつなぐ

15:40~16:05

ー卑弥呼太鼓海峡を越えるー

太田 浩二〈福岡県〉 甘木市「卑弥呼太鼓実行委員会」 元代表

1988年甘木市民の祭り「邪馬台国 in あまぎ」の中で太鼓を創設、以来市のPRと太鼓を通じた国際交流に努めている。韓国の伝統打楽器を取り入れ、リズムや形態を参考にした特徴のある和太鼓である。'98,'99年には、韓国水原市華城百中祭で招待公演、甘木市民の祭りでは釜山市より釜慶大学の学生グループが訪れた。太鼓を通じた音の交流・心の交流の意図するもの、成果と課題等について発表する。

4. 17音のスケッチ

ー水仙の里・野母崎 俳句文化のグラデーションー

16:05~16:30

藤井 卓〈長崎県〉 野母崎町「野母崎潮句会」 会長

伝統の俳句による学習の成果を積み上げ、町の人材・資源を活かしながら人々の自己実現を図ろうと、公民館を中心に活動している。月1回の研鑽、年2回の町民俳句大会、福岡県杷木町との俳句交流、他町との吟行交流、中学校俳句教室、新任教職員俳句郷土芸能教室等、地域の歴史と文化を学習し、見慣れた町の景観をいろいろな角度で楽しみながら見直し、町の魅力を再発見している。

5. 総括討論

16:30~17:00